113
769
4

大正十五年二月
房仙文部氏寄贈

門 4 13
號 769
卷 4



一 中上 友成 永延比 ちゝ力は安かりそく務せざく友うく後源し。雅祉めいかにもこゝ海やうん。乱丸を機。御本をかそく機にしてうりくしくいろへ無り。君をさ也。此ゝこうもく庭ハ分ゝえそこうくとゝ。丸をこ庭まくすまそ上うに御りに白し。丸まうけるまゝ沸もこゝ海にあるを。此ゝ能に限らば古海おハ何きも沸あり下能に沸を機にすま結ゝ上觀いろ也。大略胖（とぐきりく）牟（とくさかりて）常衣に劍（けん）をさうらけ少し短し。かうびをもうりしるゝ。細分二分極をもゝ。無り又大ちゝ力はまきまり。銀ハ常衣に長弟の鼎とおて。裏に倫弟國友成とおくに沸ハ沸成の時秘（ちゝうん）勅に見ひらるゝ。ちゝ力也。代るゝ也。大略ハ倫弟國友成とおく。又友成作ゝて打当國に同銀二代ゝ流銀に長保とおハ二代目也。前後ゝ也。此ゝ力に正長の法人ゝ。妙は愛

一 中上 助平 日比 ちゝ力の姿かそく出。大乱丸の上手也。沸をゝ丸の姿則宗に似ちゝ。雅祉目此ゝ力あり下ゝ也。丸をこ白し。丸まゝ也。天ぶさ者ゝ丁子丸をやく乱ゝ此ゝ能沸ゝ切れん

つゞまやかに広位也。切先やゝさつぱりとし。同銘二代ありといへども。くれ〴〵も
後ハ。助平。備前国助平と打。平の字手広うて第四代也
一 助包 中上 同作 孫同
太刀銘にて。やく広位に切先緩く。また反ありて。刃文小乱
乱み丁子も交り。直刃も有。地鉄細にして
...

一 包平 中上 永延比
太刀銘にて。切先つまやかに広位。振袖
...

後お国包平と打ちて。太刀銘。二字銘の包平ハ何れも
二字銘の包平ハ河内の甚五郎包平とかや
...

一 正恒 中上 永延比 十字とも云。宇の字あり。十寸扁之様。後ハ少の正恒のあり
...

中中 中上 下上 右の外。是に二人あり。備中

（てし）執ひ之の正極とくりへてハ七種の習わるを

一（中上）延房　元暦比　大刀の姿なりそく。行ひ上ゝ。拵うとく作る。切先
はくまやかに。房中。縦柾目。地ゑ底ゑ。かんそ直し丁子とも大ぶ
さに乱ゑまやくゑ。沸こ角やうまがうくとゑ。ゑゑまゑあに白し
三月の夜の縦治これ。小乱とも屈くゑ

一（中上）信房　同比　大刀の姿なりしゝ。縦取ゑんどうつゝ也。房原し
縦柾目ゑなどありそくめ。ゑ大ぶさに乱る丁子ゑとも燒。別宗
ゑ能ひたり。ゑゑまゑありて白し。地ゑ少しゑあに直し。切先ゑぶま
やうまがうしの内とそと乱るゑうに沸りと燒ゑ注ゑ者ゑ入

一（下上）吉平　正治比　大刀の姿反（そり）ゑく行も直し。房原く縦柾めゑ。
地ゑ底ゑくかんそ上ゑし。ゑの乱やう一文字のとし。かう足ゑ
縦中と燒ゑく。乱先うとくゑ也。ゑゑ入ゑひろく大ぶさに乱るものゑ
切さ紀の内底ゑきに屈く。ゑゑまゑし。沸もゑこまゑ。ゑゑまゑ云
縦ゑ勝ぎゑりどうくとうろうとく燒ゑしたり。拵（そこう）ゑ

見るゑゑゑくハ此作の勝ゑ見えんかゑるゑ。強ゑまやうゑ吉宗ゑ子

一（中）吉房　正治比　大刀の姿なくゑそ切先中。房ゑし縦柾めゑ
ゑ先。かくなどありて行ゑけゑ縦ゑ地ゑ白めゑそてゑし丁子
ゑの上平大ぶさゑうて丁子と燒ゑゑ直し地ゑも縦めもを
ゑゑあり。地へやけへゑう乱。先ハさゑゑとく沸ゑゑ同強ゑゑ三
人ゑゑ。初（そしめ）　貴族次　芳子也。此作ハ大略行ひなく縦無（むしゑ）ゑにて也直し
丁子乱とやきを先小足也。さはよ一人ありゑ也ゑあるひハ小乱ゑと
燒。大強ゑ此屬也子

一（下）吉元　文庭比　大刀の姿吉房ゑ似たり。少しのき房し乱ゑ
とやく丁子ゑともやけ先ゑの姿ゑしきものゑ。ゑのんも吉房ゑ
能似たり。ゑ堅くゑきんあり。別ゑ能ゑゑ直し。他の吉房ゑ子ゑ

一（下上）貞真　同比　一文字類大刀の姿ゑ直し細し（くさ）至わつく行せて
切先ゑつゞまやかに房深し。縦柾目いりゑもこ沸ゑゑ。地ゑゑ
ゑゑ也ゑと燒。勝ゑとあらうして平く。縦ゑゑ堅くまゑあり

母をもつ足に菓乳の焼きたるを丁子母と焼るのまゝ此物打のおこ
りまゝ上の母をひろく焼之初に内を立母に母の母をやく母も
母うれおりくるゆゑに咲し沸こゆるにあつ然るべき也よ
一下上 則房 兼久比 太刀の姿反ちく棟厚に房中 縦柾の鉄ふ
さえんく咲き色あり。地ふるしし。丁子母の大ふさうる紙にまゝ
乱母にまゝせて焼之。丁子母の乱足を地へ深くやきへて小乱をいろ
えんて菓乳をやく。母ふ言也。此作に是也波といふ太刀あり
海上にてそう物ゆゑ
一下上 助真 貞真比 太刀の姿反ちくもし。鍋が底く切先つゞまやゝ
縦柾目こゆるゆる膚之番の縦治助成ゆゑ波もちたる也。母の姿
大一文字に能似たり。大乱と焼。母の先ゆゑ縮ぐのやうにささゝあ
て母並にあやうに沸るんあり。地ふるしく。母ふ言也。縦本の母
をかそく焼出し。忠棟角小出也。此作に同人と云説あり
に入鎌倉の助真ハ新作に入

一中上 守家 宝治比 畠田住 太刀の姿ハ長さ二尺。寸ゆく長の底し縦柾
目こゆるゆる地ふ底ふ上に言。丁子母の上に棟本に丁子母と焼ふ
焼て先へハ丁子母をもとく所く乱の名に焼之丁子の姿が叩と見之此作に
瓢箪の母とてあり。母ぞ勝にやくに二重の丁子もあり。又棟母と乱
りて底く焼もあるにのゝ事ゆゑ也うつもあり。同様三人あり。二代め
の事也。是も丁子母の上に又かゝ上に入。太刀の姿長さに似たり地ふる
あり。瓢箪母二重丁子ハ浮。初中上 後下上 初大様に打附ハ目
貫穴の下に打後作ハ小様にて目貫穴の上に打立ち長船に一
人あり長様にて打之
一下上 真守 日法 物ち家が守子太刀の姿。守家に似たり。膚があ
ら先へあつけたる色あり。乱母と焼。丁子母のおとひにおどらしき母
あり。丁子母ハいやし。され先上に母ふ言也。叩ぐんなてちとかゝ母ふ太刀
多し。ポハと打たる事と貴族とべし。真守二字様之同様伯耆にあり
是ハ伯耆大原真守と打也

一中 光忠 同比 太刀の姿猶なかんだりつまに猶本反て宝わつく
弱せりく。庸中切先亦中也。地ふるまくかんでよにまくあるかも
鋩ハ柾目ゆゑこ白くかくめて丁子ゆゑのよ手こいつまの丁子をやくゆゑ
足を地へ深く丁子ゆゑをきりしを燒ゆゑをもちに心切るにはりんぞ
ふおくおんあり。地鉄もまたしあらけまり
一中上 長光 永仁比 太刀の姿光忠に同し。梅代ぬで叫ぐ。ぐりかくまた。
こまりを弱他りも多し。庸中鋩柾目ゆゑこ白くこ鋩こ白んて
堅き地鉄あり。丁子燒の上手丁子頭をもたくゆゑもむけくりと
うつしを燒ゆゑ猶なをとて丁子ゆゑの大小をいろえて先へ庸中ゆゑ
おく乱を燒へまたり切先の内も乱なるをうつりまる他文よりまた
を弱ゆゑ刀下手也。此他ハ鋩ゆゑ[illegible]と打たるもまた長光
と打たるよりも常然之二代目ハ左衛門監長光と打太刀ゆゑ
姿ゆゑ庸丘ハ作鋩又長光と同おなしまた鬼鬼相こまり
なり地ハ光ゆゑ小乱ゆゑあるひハ細ゆゑ燒丁子燒ハまり[illegible]

但庸ゆゑなしの[illegible]ハうつり[illegible]此他ハ刀を多く他の刀の[illegible]
祢石ゆく庸を丘ゆゑふるらをかをくしてゆゑ小乱ゆゑあるひハ細ゆゑ
小燒之剣梅切物をゆゑてかる也
一下上 京光 延長比 太刀の姿[illegible]あつく。弱をせずく三角ハ他る
庸丘ハ切先のまやかゑ鋩柾目ゆゑこ白くこ鋩こ白くこ白
ゆゑまぎんあこ[illegible]ぐのんこうつりをあこ小乱と燒。り[illegible]太刀ハ
太さに乱ゆゑをあこ丁子ゆゑ[illegible]小乱ゆゑ[illegible]
ちく燒ゆゑ[illegible]ゆゑ白し。[illegible]ゆゑまし[illegible]
刀上手也。剣梅[illegible]ゆゑ[illegible]
と[illegible]ゆゑ[illegible]
一下上 兼光 建武比 太刀の姿[illegible]庸丘切先也[illegible]。天略梅
と叫ぐ。脾[illegible]又分計[illegible]鋩板め[illegible]
[illegible]小乱ゆゑと燒。丁子ハ[illegible]太刀ハ[illegible]。[illegible]
小燒庸丘ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]刀ハ鋩[illegible]

てなるあらめ刀れ姿を来光とも[illegible]とうとくなると居く作り
ふらの中に横めるり縦ありうろうを作る。倫光師光は兼光に
あり。私は倫光よりくはしら。義光は父の兼光に似ら。但乱れの心
又ありと少大ぶさえ見も梅とかく。義光の居し。兼光の梅細
々に成し。かりやすれ兼光が太刀の姿は鍋をくなれし。父兼光
にそふ比なる也。其時ハ小乱刃或は細出刃を鍋切先をもつぶまわら
也。正宗にお伝とろ近久の比ありしそれぞひろく板のまの居
出刃おまは作りたれ。又云太の一新切物の上手也剣ぐりかゝハ為
けうしかれなり

一 長義 貞治比 太刀の姿ちぐひろく切先のひろ居丸めて
鍋せばしがきねがうしに縦板目也。地ちうまくはしあらけうちあり。
大乱のこまみを出に焼き刀は大略ひたつる。先の刃居して沸刃
し。乱刃の内に薬紙焼へうるを以て俗称物とかんべし。のこまれ
いのかそうより湯気と地へ焼こみ見えたり。鳴鳴金のんあり。長[illegible]

りかうりひろけておく

一 元重 正中比 貞宗が守子。太刀の姿ちぐひろく棟わりに鍋せ
たく居ふり切先のひろ。縦板目にていかなもと海ちかりくれ
ゑ。澄ちぐことを俗中太刀のしし。地ちうまめて地肩あり
縦上手へひろ出刃に小足をのて焼ぎ反れ。大乱刃をゆくて子に橋
也。刃ちうまめ。又小乱刃をもつ。物ゆさうも太刀多し

一 京秀 宝治比 太刀の姿ふんぐりつまに鍋居く居中。切先も
中梅をうきたる太刀後。縦[illegible]にてあるく地ちうまし。乱刃を鍋
足をふりく大ぶさえ丁子をうつしく焼るまま結ぶ。刃ぶちさはどく姿
小沸し。居刃の内に刃ぶ。切先の内出刃にてかしめくかつり
[illegible]。梅に湯気と焼るまもを

一 真長 永仁比 太刀の姿長光に似ら。ふんぐりつまして切先の
つまやうに。たき梅紙のんて[illegible]。小乱を焼[illegible]
を焼たいかにて海ろ。左手物皆に能似ら。ろうを切先の内出刃に

をかはせる也。右傳本脈法の次第ハ[illegible]系[illegible]

一近包 建久比 大刀の姿吉平に似ら。脈拒目わりけるに[illegible]
地ちるなり。丁子燒の姿吉家に似ら切出の内紙無ゆるかわきく
燒之ゆるに[illegible]脈のんハわさきもやうなり

一吉包 [illegible] 大刀の姿ハそくもく反[illegible]。脈拒目[illegible]もくめの
心膚脈にあり。地ちるなり。乱ゆの上[illegible]。ゆのもやう勝本と小乱に中程
と大乱に足と深くやきの拘打[illegible]。上[illegible]ゆとかそく[illegible]と[illegible]
ゆるに燒之切出の内無ゆなし[illegible]。そと乱[illegible]んわり。[illegible]
わり。ゆんこまくうつきりと[illegible]丁子とやく。大刀ハまきこ[illegible]
丁子ゆあ[illegible]大ぶさに[illegible]

△鎬中拘[illegible]大[illegible]大刀[illegible]寸[illegible]ひ
ろ。鎬本そりて[illegible]。脈拒目地ちるなり。[illegible]
[illegible]。[illegible]膚わり[illegible]
し。中[illegible]ゆ[illegible]

ありがりしきれ[illegible]乱ゆに[illegible]
[illegible]ひろ乱[illegible]
[illegible]文[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一次家 [illegible] 大刀の姿反[illegible]勝本[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一貞次 [illegible] 大刀[illegible]
ゆに燒拘打のわこつに[illegible]

をわり。又ハ[illegible]次ハ[illegible]貞兼定の下ひくの方ニ貞
次と打やとり大きにうひ。先ん山城国[illegible]と[illegible]
刀とも[illegible]。[illegible]ハ[illegible]
[illegible]平貞次と打。[illegible]貞次と
[illegible]つとあり。[illegible]
一 [illegible]次 [illegible] 表[illegible] [illegible]
[illegible]
[illegible]貞兼定の下二字銘[illegible]
[illegible]
一 正恒 [illegible] [illegible]
[illegible]
[illegible]
一 家次 [illegible] [illegible]刀の[illegible]
[illegible]

[illegible]
家次作と打又二字銘[illegible]
[illegible]
[illegible]
次吉 [illegible] 貞次 表[illegible] 秀次 次忠 次恒
包次 次頼 直次 [illegible] 宗次 忠次 次秀 次俊
[illegible]次 吉次 [illegible] 勝次 [illegible] 恒次 [illegible] 久次 [illegible] 守遠 [illegible]
次弘 為次 次俊 [illegible] 直次 [illegible] 守次 行次
國次 重次 弘次
則高 [illegible] [illegible] [illegible]
常遠 [illegible] 正恒 [illegible] 恒清 [illegible] 恒真 常依
康恒 安恒 安恒 國秀 [illegible] 重来 行忠
業高 為信 行利 在弘 弘恒 安家 [illegible]
[illegible] [illegible] 安弘 有弘

俗後物三原の大神鍋(ちのき)也せらく唐原し兼株もの一縦
板同とも見たりくめとみさら地ゆ庭ゆ三して上白の[illegible]
さるの一垂刃ふら沸ゆ。角とひ山へ稱其刃地ひしやさの表
也ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
つゝかれ沸は刀ハ唐株也[illegible]浦ゆりとものむ地ゆくこと
まやかへふくら[illegible]刃と縁く燒くつきうけ[illegible]おくかや
うへうつゝの恵とこ[illegible]株角先行と[illegible]ハ[illegible]表[illegible]
裏[illegible]

一 正家 貞治比 大刀ハ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
お[illegible]切先正さら。縦板同地ゆ庭ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
なりうとまれ[illegible]。[illegible]刃ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]但[illegible]と小[illegible]やさそ[illegible]庭垂刃[illegible]燒へ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
小[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

垂刃の大刀ハ古[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
表[illegible]同[illegible]二代あり

一 正廣 [illegible] 大刀の[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
縦板同[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
先へハ庭垂刃也[illegible]刃ゆの下ハさの[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]庭垂刃の下ハ沸[illegible]切先の内ハ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]やさ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
右之外 行者 ひづさ[illegible] 康永比 貞家 親次 秀次 實貞
實光 正則 國正 國分寺 助國 兼安 兼光 兼吉
兼守 貞正 正近 [illegible] 賛正 正直 秀次 貞光

△筑[illegible]ハ大神ハ大刀の[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

一定秀

[illegible]

一 平長盛 同国富田住

[illegible]

一 神息 和銅比 豊前国宇佐住 の社僧と云

[illegible]

一 三池傳多 兼保比 筑後

[illegible]

一 西蓮 正応比 筑前国博多住

[illegible]

一 實阿 正和比 同国

[illegible]

一 左 文和比 同国 [illegible]

[illegible]

焼あして沸わらく良して乱先羅ぐのとくにぐらら皆滅切先
の内に乱きてがしとさがゆんに焼之又ちまめに異し刃ハ狂又
ぬらるたぐも底く重○うすに反ちく作る忠ハ棟角ハ忠鋒ハ鋭
ハ帯表目貴穴の下平に左と打。裏に鋭刃作と打。刃ハ指表に
左と打て裏に鋭刃作と打。隠鋭に源慶と法也作る云吉
光り年[illegible]し作よあり云々
一安吉 下上 平に左ノ子ち刃ハ鋭反ちく切先也て底深し鋭板目ハ
こまり地ちつまして云きんあり。縁ハ細乱に焼物打のあらはれ
底乱に焼之又の底ハ不出のがり足更にえぬ作之がしハ丸く焼て
かそき地と又の内ハ焼へらり。かそのまへらつかん。細き地と焼へ之
細き地の焼へ刃分刃に重ハ焼りあり。刃ハ重○厚に寸長そのあるに
作り左ハ分の平○と落く。ちとも少底ハ反ちに作之。又子の刃ハ
不完也。ちと左ハ鋭さうえて地ちぐにけるとも刃ハ安吉ハ縁きて刃
ゆり之作安吉も後に左と打。其附ハ左のまゝ大きさにたがひ○ふとし。ち刃の

忠鋒ハ横鋒。平ハ忠鋒之鋭ハ帯表目貴穴の下に二字打。或ハ左安
吉と打ちうまもあるべし。其末の左の数ハ忠棟角にて横鋒之
一感高 同国住今剣云来 ち刃の鋭反ちく鋭せげ。忠又ハ大乱も
ありがへり源。忠棟角にて横鋒。先剣ハ左くこがりていやし
鋭ハ今剣云来感高或ハ源感高とも打之
一国村 元徳比肥後国延寿ち新 ち刃ハ鋭ハ左ハ忠鋒ハ底く
反ちて云んぐらづまに切先つまやえ。鋭板目来国行に似たり
地ちつまくみてよく白紙ちわり。忠又に小足とのて焼。ふえがらく
とこぬりにしくあり。又ちに遠。国吉も新来様国分。国村ハ鋭
深くして少底ハ。いつまもがしと丸く焼悪して此寿ハ何きも又
地鋭ちも小呉して古関の鋭のじと。関ぎりの平に十文字ハ打ちう
り関村なり
一国総 同比月国住 ち刃の鋭もくふんぐらづまに底深し。鋭板目地鋭
むくやきて地ちこまらめ乱又にかけるに鋭之沸こまやうに遠

右要右ニ附ケラ。大略梅紙ノ。刃ハ[illegible]刀ハ[illegible]の刃と
いふ[illegible]つく。燒之同梅と中へ[illegible]忠ハ[illegible]
初製 株角ニ肉あり。横鉾ニ来ル[illegible]
一下 正國 永正比 薩戸波平住 右刃の波寸長く鍋ひ[illegible]丸株と好
縦板同うじ[illegible]ぐ三小乱刃[illegible]乱[illegible]やきつ
め。少[illegible]地[illegible]大略波平ハ[illegible]
座ニ縦わりて上へ[illegible]忠ハ横鉾[illegible]ハ細[illegible]
き鉾後。正國ハ[illegible]遠鉾。株ハ角。鉾常表同貴宮の上志のぎへか
きて二[illegible]鉾ハ八百年と[illegible]
一 行仁 建久比 同國住法師之 右刃の波寸長く反[illegible]丸株ニ[illegible]大略梅
[illegible]梅座。[illegible]刃と燒小乱[illegible]燒之[illegible]
[illegible]地[illegible]座[illegible]
切先の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ上中下[illegible]

一 能定 [illegible]戒ト云 了久信中子 右刃の波寸長く[illegible]
[illegible]戒の[illegible]小乱刃[illegible]燒[illegible]
掃[illegible]剣[illegible]字[illegible]忠株[illegible]鉾ハ
[illegible]戒能定[illegible]
右之外 偽定生 豊後國 利成 同住利世子 國純 同住
幸貞 同住 良明 同住定慶同人 安則 [illegible]實[illegible]行平[illegible]
友行 同[illegible]田住 左文字末 治盛 同 貞盛 同 盛重 同 盛忠 同
鎮教 則末 肥前國伊佐早庄住人敬位則末
右貞 [illegible] 定行 同横鉾 定吉 同忠[illegible]
義行 三池の[illegible] 利延 同 利成 同利世子 守綱 同
安究 波平の[illegible] 安滿 同 安俊 同 助[illegible] 吉宗 同
行滿 同 友安 同 宗行 同 安利 同 草安 同
近安 同 家安 同 安純 同
時末 延壽の[illegible]

銘次 筑紫了戒の弟　銘真 曰　直銘 曰　重行 曰

氏房 西国舞草と云

行真 九州住物前伴と同銘也

生佛 一派に見別の宝也と云 筆者行作也　宗忠 九州住物とて了也

氏久 宮井　見佛 曰

北国物之大様作くみちて宝もの大様にし多く佛

多少作者也

一国安 康永比 越前来と号。千代鶴と云刃は出来ひろくして
実にみ焼く広く深く或は三様或は丸様に作之刃様みて
地うるみて匂ひ細く垂れふちなる地紙ち珠出る作之刃文或
八小乱そ多く沸匂なる様に満ちても焼く大刀小刀も多く銘八来
国安と打国の銘もあり ひろく様は角

一守弘 出雲守 大刀の出来八なるぺくきもすとて乱を多くわり
忠様丸ぺ細く目貫穴の上に二つ打

一友重 加州金沢住国後守 大刀の事はふんだら鍋く沸せりく
地ひろく大刀小刀あり一筆あわり乱あ多おひろのきはんの
やうなる出来なる多くあふれたみの作ハ山
形よりて作の作八鍋と一文字より古代の事を細くかぎ
一義弘 建武比 越中国住松倉郷と号 大刀は細く切先のび
きり鍋もせ広く高き焼刃つるひろく南やうに出てもやや
さきには地ごそきありのみなて細く出來乱みと焼き沸
こみ付け作の出来ある板目多なりしは地にみ定むあれて大なる
みえの作に大刀小刀とし練れ乱と来々刃ちる銘
はめ光くそ焼なみ細くそうす代名の作にみる目的
大きく多くのやう小乱ちら乱み紋を地をよくかめ
宗定の名はち作宗八銘のふちかの代れにかわる
よかろうもしらる銘也忠八ま大刀宗のと名に様と角り
すなわち細かに様焼の手深くもむれら刃の忠ハ似たよさの

かまぬやうにしてよく御様角様の御と平同なる太刀の御と刀同
前之に他人あらず其他之称徳会ゝ行して義廣と打たる御徳
会御と号ニ
一中則重 屠蘇氏 同國住御門脇御と号ニ 太刀の姿すもくそりたる
行ひろく少なくして屠ゆかに住之 姫板目わやまじれのやうなる也く目
地あらはれ其二ツ其ハ其あらはれ其ハ地ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ
焼て沸ゆりくと言ひしたゞ此ハ義弘が守子ニ此ハ行を世ゝ作る事ハ
地○ほつそ刑部のとくのがる義弘とそれてより正宗が守子ニ
此ハ姫と言てうつしなる姫志之路就右の姫のんハ沸ゆとぞ正宗ハ相傳の
後ハ此ハをしつゝ焼ぞ志此ハ正聖ハ作劍ハ地ゝるまゝ太刀ハ私ハ其ハ是を
正宗とかん義弘と見る目的整なる然ハ太刀ハ越中國住信白
則重と打ぬ事ハ二字銘ハ打又いつく板目の姫なる太刀ハ行せゞ
○此同利書代之雖為秘書 按密ニて信御執人不義写也
其也 長代人之本 号 長十六 亥三月十二日 終

早稲田大学図書館
011888002253